

例えば男女の結び付きについて、一面では愛の告白は説得の一種で、真理に乗っ取って愛を告白したからと言って成就するものではない。間違っていようと、クラクラとして寝てしまう結果、子供が生まれて結び付くこともある。絵は間違いの方から見ると一体、どうなるのだろうか。いや、もう少し男女の結び付きの方から考えてみよう。

確かに大学入試みたいに模範答案みたいに求愛することもできる。そうして一度、難関を突破すれば資格試験に合格したように考えることもできる。さて、大学入試と恋愛、結婚はどちらが大事なのだろうか。いまは知らないが美しい女優さんはよく富豪と結婚したものだ。そして誰も不思議には思はなかった。そういえばハレム、蓄妾という言葉もあった。こんな類の男女の結び付きはどう考えればよいのだろうか。やはり男女の結びつきも競争なのか？若し競争だとすれば一等は何であり、びりは駄目なのか。負けて勝つ場合もある。

簡単に美術といえば絵を作る画家が製造元でハードということになる。画商、評論家、美術館、教師等はソフトということになるのだろう。時代はソフトの時代と言われているとおり、鑑賞者は群れをなしてマスコミ主催の「展覧会」に押し寄せているが作者不在で作家自身存在感がない。今日は1999年4月3日4時45分「3月28日より夏時間」昨日より120号3枚組をはじめ。さて作家不在といっても事情は色々あるわけで例えばオリンピックをはじめサッカー、野球と個人的にするかぎり決して何億円という金をとれることはない。そうして個人は記録、賞金に関係なく日々身体を動かして人間は無意識の内に生活している。しかし凄いお金になるとスカウトする人ができ、体が大きいとみると力士に誘う。勿論、誰でもなれるものでもない。希少価値というものであろうか？

人間のすること政治、経済が絡み個人ではなかなか手の届かない権力というものがある。これもやはり希少価値であろうか。成功というのは希少価値のことなのか？もし成功というものが希少価値だとすれば少数者のみが成功者ということになり、世の中の人々99パーセント、いや、それ以上、宝くじより当たらない。人は当たらないくじを夢みて落伍者として生きているのであろうか。国民、大衆と呼ばれる多数者はくじを買うことができるという公平さに、決してあたることの無い賞金を夢見る落伍者であり敗残者と呼ぶこともできそうだ。